

3. 千葉大生の提案から見る「らしさ」

1) はじめに

千葉大学都市環境システム学科では、一定の規模のある都市・建築のデザインについて構想し、企画、計画を総合的にまとめるトレーニングを目的とした演習を実施している^{注1)}。学生は、あらかじめ設定された具体的なフィールドに対し、計画に先立つ調査や分析を行いながら提案を作成する。この演習ではこれまで、東京都墨田区京島地区^{注2)}を対象地として実施してきた。2008年度から千葉県山武市を対象地とし、2011年度までに成東地域、松尾地域、蓮沼地域、山武地域の4地域を各年度毎に実施した。2012年度も実施され、以降も実施される予定であるが、本報では、4地域を対象に1回ずつおこなった結果を対象とし（すなわち2008年度から2011年度まで）、得られた知見をまとめる。各年度に演習を行った地域と受講者数^{注3)}を表にまとめた（表3-1）。

表 3-1. 年度別演習実施地域および受講者数

実施年度	実施地域	受講者数
2008 年度	成東地域	23 人
2009 年度	松尾地域	15 人
2010 年度	蓮沼地域	12 人
2011 年度	山武地区	14 人

注 1) 演習は、千葉大学工学部都市環境システム学科 (B コース) の3年生を対象に4月から7月期に開講されている。

注 2) 1998 年から 1999 年まで京島を対象に、2000 年から 2004 年まで一寺言問地区を対象に実施した。2005 年から再び京島を対象地を移し 2007 年まで実施した。

注 3) 本報における受講者数とは、受講登録者数のことではなく、各年度の演習において提案を作成し、演習の報告書に掲載された学生の人数を加算している。

2) 演習の概要

演習の主な構成は以下の通りである。

1. 地元の人々の話を伺いチームで実地調査と地区分析を行う。
2. 討議を重ねながら、旧成東町とともに山武市の将来像を示す基本構想を練り上げる。
3. 基本構想を踏まえ、提案した将来像を実現する第一歩になるプロジェクトを各個人で考え、具体的な提案としてまとめる。

成果物は、

- (1) 対象地区分析：マップ等を活用してまとめる。
- (2) 基本構想：コンセプトを明快に表現する（かつ魅力的なタイトルをつける）。
- (3) 最終成果物（グループ）：分析・基本構想などを A1 用紙 2 枚とグループ模型でまとめる。
- (4) 最終成果物（個人）：基本構想に基づいた個人提案を A1 用紙 2 枚と模型でまとめる。
- (5) 提案集原図：最終成果の内容をまとめる（グループ、個人ともに見開き A3 用紙 2 枚）。

の5つが課されている。

参考までに 2008 年度の演習日程の概要を表にまとめる（表 3-2）。学生はまず、4 月にガイダンス・課題説明を受け、5 月に現地説明会を受ける。その後、何度か対象地に足を運びながら地区分析を行う。地区分析では、対象地をまあるきして見たもの、ヒアリングをして得たもの、あるいは、対象地の歴史的文化に触れた結果も反映する。加えて、現状の背景にある資料や文献、あるいは統計データも活用しながらまとめていく。ここで得られた知見をもとに、6

表 3-2. 演習日程の概要

4/19	ガイダンス、課題説明	グループ作業
5/10	現地説明会	
5/17	地区分析プレゼンテーション	
ゝ	エスキスチェック（3 回）	
6/14	基本構想プレゼンテーション	
ゝ	エスキスチェック	個人作業
7/19	最終プレゼンテーション（4 回）	
7/26	総合講評会	
8/2	現地発表会	

月の中旬の基本構想プレゼンテーションを目指して、グループで基本構想を作成する。基本構想プレゼンテーションの後は、作成した基本構想をもとに、それぞれの学生が個人提案を作成していく。個人提案は、最終プレゼンテーションで基本構想とともに発表する。それぞれのプレゼンテーションまでには、発表形式でエスキスチェックを行い、学生の進捗状況の確認と提案の優位性について議論する。基本構想プレゼンテーションまでには3回、最終プレゼンテーションまでには4回のエスキスチェックがある。最終プレゼンテーションの後、学内で実施される総合講評会を経て現地発表会となる（図3-1）。



図 3-1. 現地発表の様子

3) 個々の地域における提案から得られた知見

演習を行った地域別に、個々人の提案から得られた山武市を構成する要素を表にまとめた（表3-3～表3-6）。その結果、以下の35要素が提案に包含されていた。

田、畑、水路、生け垣、竹、山武杉、農産物、食文化、地元住民、農村景観、農業体験、有機野菜、里山体験、瀬戸山、林道、農村の生活、自然の生態系、朝市、成東駅、松尾駅、商店街空き店舗、駐車場、寺社仏閣、ランドマーク、河川、朝日、夕日、海、防風林、砂浜、地引き網、公民館、旧町村庁舎、古民家、道（県道121号線や旧成田街道など）

これらの内、主な要素とその件数、割合を以下に挙げる。

農村景観	23 件 (35.9%)
食文化	15 件 (23.4%)
地元住民	14 件 (21.9%)
農業体験	11 件 (17.2%)
農村の生活	11 件 (17.2%)

学生の提案に包含された35要素の内、最も多く提案に盛り込まれていたのが「農村景観」である。印象に残らないものや魅力的でないものを提案に反映させることは、あまり考えにくいことから、「農村景観」は、提案作成者にとって、魅力的に思う傾向にある要素と考えられる。また、次いで多くの提案に包含された「食文化」との差が約15%近くあることから、その傾向が顕著にあると言える。

表 3-3. 各提案における成東地域を構成する要素

	チーム提案のタイトル 及び提案の概要	個人提案のタイトル	提案要素																																			
			田	畑	水路	生け垣	竹	山武杉	農産物	食文化	地元住民	農村景観	農業体験	有機野菜	里山体験	瀬戸山	林道	農村の生活	自然の生態系	朝市	成東駅	松尾駅	商店街空き店舗	駐車場	寺社仏閣	ランドマーク	河川	朝日	夕日	海	防風林	砂浜	地引き網	公民館	旧町村庁舎	古民家	※道	
成東地区	『成東の風景をつくる』～ 農業資源をいかしたまち づくり～	遊休農地の活用	○	○	○						○																											
		トオリヤンセ			○			○	○		○		○								○																	
		ぶらり駅の時間						○				○									○																○	
		成東商店街と朝市の大融合			○			○	○												○			○														
		新住宅街区「なみきり町」が成東の風景づくりに貢献する			○								○							○							○											
	『One's home』～わたしの ふるさと～	山武の隠れ家	○	○									○						○																			
		山武市に広がる開放的な駅へ											○									○																
		One's road											○																									
		One's かふえ																																				
		ひとをつむぐ～駅前中央商店街～											○	○										○	○													
	山武Commit	農業再生	○										○	○																								
		語らいの場										○								○							○											
		通過点から中間地点へ	○										○	○													○											
		里やマンの居所	○	○								○					○																					
	『里山ミュージアム』	里山の遊ぶ家		○	○											○																						
		Naruto Link to Satoyama										○			○													○										
		週末の自然学校										○	○					○																				
		川の駅										○																	○									
	ナルート121+	にぎわいの散歩道																							○				○	○	○				○			○
		Good Light Night 眠れない夜はこの町へ																														○						○
		音の鳴る時計台										○		○																○	○							
		憩いの場											○								○									○	○							
	成東に対する関心を取り戻してもらうきっかけとなるような場づくり	海の食堂																											○	○	○							

※県道121号線や旧成田街道など

表 3-4. 各提案における松尾地域を構成する要素

[illegible]

※県道121号線や旧成田街道など

表 3-5. 各提案における蓮沼地域を構成する要素

[illegible]

※県道121号線や旧成田街道など

表 3-6. 各提案における山武地域を構成する要素

	チーム提案のタイトル 及び提案の概要	個人提案のタイトル	提案要素																																				
			田	畑	水路	生け垣	竹	山武杉	農産物	食文化	地元住民	農村景観	農業体験	有機野菜	里山体験	瀬戸山	林道	農村の生活	自然の生態系	朝市	成東駅	松尾駅	商店街空き店舗	駐車場	寺社仏閣	ランドマーク	河川	朝日	夕日	海	防風林	砂浜	地引き網	公民館	旧町村庁舎	古民家	※道		
山武地区	bio-village—山武を、おいしく、楽しく—	さんぶの森マルシェ							○				○																										
	山武市で20年以上の歴史がある有機農業に着目し、有機野菜を食べる機会によって興味、関心を喚起することによって山武市が活性化するための提案を作成した。	菜園シェアリング-共に活かす-							○				○					○																					
		Media Café さんむ-コミュニティによる情報の共有と発信-											○																										
		bio × bambinos										○	○																										
		ゆうき館～さんむ農業支援センター～										○	○					○																					
	サンブガルテン-山武のこころが育つ庭-	ヒュウガルテン					○	○		○			○																										
	サンブガルテンとは、農地の賃借制度であるクライグガルテンに着想を得て、新たに山武市に提案する3つのガルテンのことである。農地や林地の他に、新たに住宅地を加え、各ガルテンの関係をつくることで、モノと人の流通を活性化する。	ラーバンヒュウガ																	○																				
		ベルガルテン					○				○	○			○	○		○																					
		ヨコタの青いそら-ヨコタで出会う新しい農業の世界-												○																									
		ふらっと屋根の下-ヨコタガルテン-								○				○																									
	山武流-ウォーキング大会と大会で整備される施設を用いた地域活性化の提案-	Joint pont 山武の美しい川と人をつなぐ懸け橋											○															○											
		Snail gate -山武流-											○																										
		分水嶺											○						○																				
	山武地域の景観資源を持続的に楽しみ、活かしていく手法として、林道、作業道をコースに含んだウォーキング大会と日常的にも使用可能な施設を提案した。	kobasaku2011-木場作の復活/木場作デッキ/林道・作業道の維持保全						○										○																					

※県道121号線や旧成田街道など

4) 千葉大生の提案からの山武らしさ

学生が作成したまちづくり提案に、「農村景観」が包含される傾向にあることは前節で述べた通りである。本節では、成東地域で作成された提案の内、「農村景観」を包含した提案に着目し、その着眼点や仮説との相違について分析する。

千葉大生が、成東地域を対象地に作成したまちづくり提案の内、「農村景観」を包含した提案は9件である(表3-3)。この9件を対象に学生が提案する「農村景観」の活用方法を表にまとめた(表3-7)。それによると、提案対象地は、成東駅の北側、成東駅と海岸の中間地域、駅舎、線路沿いの4地域に分類できる。提案対象地に対する提案数は、成東駅の北側が3件、成東駅と海岸の中間地域が3件、駅舎が2件、線路沿いが1件である。

成東駅の北側では、遊休農地や里山景観の活用を提案に包含している。成東駅と海岸の中間地域や線路沿いでは、田園風景の活用を提案に包含している。駅舎では、明確な表現はないものの、北側の景観が意識されており、近景、中景に田園風景、遠景に丘陵地帯の山並みのある総体的な里山の景観の活用が提案に包含されている。

以上のことから、提案対象地が丘陵地帯に隣接する地域であるか、沖積平野の地域であるかによって、提案に反映される「農村景観」が異なることが分かった。すなわち、成東駅の北側、および成東駅は、丘陵地帯に近接する場所であり、この地域では里山景観や遠景に山林、中景に田畑の景観が広がり、こうした景観が提案に反映されている。成東駅と海岸の中間地域や線路沿いは、提案対象地が沖積平野にあり、ここでは田園景観が広がり、こうした景観が提案に反映されている。第2章で、地形の影響を受けた農村景観が「山武らしさ」に帰結することを仮説としたが、学生が作成したまちづくり提案からも同様の説明ができる。

表 3-7. 成東地域を対象地に「農村景観」を活用した提案

提案場所	個人提案のタイトル	「農村景観」の活用方法
成東駅の北側	遊休農地の活用	成東駅北側の景観が重要であると位置づけ、この遊休地に、広場、水田、畑、水路が混在する場を創出し、コミュニティの場、農業体験の場とする提案。
駅舎	ぶらり駅の時間	周辺景観との調和のため、提案する駅舎の素材に山武杉を用いている。
駅舎	山武市に広がる開放的な駅へ	楕円形の建物に駅機能と観光案内所を包含させて、開放的な駅舎とすることによって、駅の北側の景観を引き込み、南北の連続性を演出している。
成東駅の北側	One`s road	成東駅北側に里山景観を享受できる複合施設を建設することによって、成東駅北側集落、提案する複合施設、成東駅、成東駅南側を直線的に結ぶ提案。
線路沿い	農業再生	持続可能な農業の展開と線路沿いの田園風景の保全を目的として、農業学校を提案している。
成東駅と海岸の中間地域	通過点から中間地点へ	農業体験者の宿泊および交流を目的とした複合施設に、前面に広がる田園風景をビスタ景として取り込んでいる。
成東駅の北側	Naruto Link to Satoyama	成東駅とその北側の里山との間の轍に、ランドマークとしての木材置き場を提案している。そこで、風景の連続性、四季の変化を五感で感じられることを特徴としている。
成東駅と海岸の中間地域	音の鳴る時計台	成東駅と海岸の中間地点に季節の食堂、直場所、ステージなどの複合施設を設置し、それらの機能とともに、朝日や夕日、田園風景が享受できる場を提案している。
成東駅と海岸の中間地域	憩いの場	周囲の田園景観を活かすために、提案する建物は平屋とその屋上テラスのみとしている。